

石川県ユネスコ協会主催スタディツアー参加報告 —ベトナム・カンボジアでの体験を中心に—

A Report of a Study Tour for Students, Sponsored by Ishikawa UNESCO Association
—Mainly on Experiences in Vietnam and Cambodia—

池 上 奨（人間科学部こども学科教授）

Susumu IKEGAMI (Faculty of Human Sciences, Department of Child Study, Professor)

野 崎 幸 生（石川県ユネスコ協会事務局次長）

Kosei NOZAKI (Ishikawa UNESCO Association, Deputy Secretary-General)

〈要旨〉

本稿は石川県ユネスコ協会事務局次長、野崎幸生氏との共同報告書である。

石川県ユネスコ協会青年部は、1999年より、毎年スタディツアーを実施している。その計画から実施まで、学生たちが主体となり事業を行なっている。本稿では、まず、スタディツアーの役割について述べる。次に石川県ユネスコ協会が支援するカンボジアにあるBFO施設の支援内容について触れる。また、筆者（池上）が提唱している「画力不要アート」の実践報告を行う。最後にスタディツアーとアクティブ・ラーニングとの関連性について触れ、支援先当該等ツアーに実際に参加した本学生を含む21名が、どのような心情で参加したのかをエスノグラフィー方式で報告するものである。

〈キーワード〉

画力不要アート・スタディツアー、
アクティブ・ラーニング・エスノグラフィー・石川県ユネスコ協会

1 はじめに

ビザなしで渡航できる国の数を各国で比較する「パスポートランキング」^{*1}で、日本（2018年現在190ヶ国）がシンガポールと並び世界一となった。国際化が非常に進む中、近年スタディツアーは多くの場所で目にするようになってきた。大学やNGO、NPO、旅行会社などが魅力あるプログラムを発信し、旅行費用もLCC（ローコストキャリア）便の就航などにより、航空運賃が値下がりをはじめた。スタディツアー参加者にとってプログラムが飽和過ぎて、どのプログラムを選ぶか困惑するようになってきた。

スタディツアーは文字通り、「学ぶツアー」なのだが、ただ現地に行き観光するだけが目的の旅行ではない。現地へ行き、現地の文化や風土、人々に触れることによって体験する中で何かを「学ぶ」ことがスタディツアー参加への大きな醍醐味なのである。

近年、スタディツアーは大きく2分化されている。一つは、旅行行程の内容が決まっているスタディツアー。もう一方は、旅行行程の内容が決まっていないスタディツアー

である。

共同報告者である野崎は1999年に石川県ユネスコ協会青年部を設立。今年（2018年）で設立から20年を迎える。同協会青年部では、設立当初より18年にも渡ってスタディツアーを実施してきた実績がある。筆者（池上）は本学が求める「こどもスペシャリスト」育成に対して、経験を与えてくれるプログラムであると考え、「こどもスペシャリスト」を目指す本学の学生8名とともに参加した。今回第18回ベトナム・カンボジアスタディツアー参加者は、本学学生8名、他大学13名、筆者（池上）1名の合計22名が参加した。

そのような中で、筆者（池上）は図画工作教育における教員養成は、課題を感じていた。10年間図画工作を教えているが得意ではない学生たちが多いことである。

そこで、講義の中で「画力不要なアート」を実践、指導している。しかし、なかなか教師になった卒業生並びに学生自身に苦手意識が先行し、なかなか子供たちにアートをすることの楽しさや面白さなどを伝えることができない。

「苦手から好き」へと繋がらないのが現状である。まずは、教師自身がアートを好きになることが、児童を育てていく第一歩となりえると考ええる。

支援先であるカンボジア（シェムリアップ州）の歴史をひも解くと、1世紀頃より国が設立し、9世紀にはカンボジア王朝が完成する。その後、12世紀ごろに建造されたものがアンコールワットである。その後、15世紀にはアンコール王朝は撲滅し衰退するが、その後、遍都を繰り返しながら、現在のシェムリアップにアンコールワットが建造される。のちに、ポルポト政権により知識人の惨殺を受け、アンコールワット寺院群も崩壊へといたった。しかし、今日、ユネスコの世界遺産の認定を1992年に受けると、修復工事が行われ現在の寺院群へと変貌を遂げた。2018年現在では、およそ年間700万人の観光客が訪れる場所となった。

確かに観光客は増加したが、教育水準^{注1)} *2は、外務省^{*3}の調査によると、2018年1月現在、小学校（初等教育）6歳～11歳（第1～第6学年）の就学率は約77%、中学校（前期中等教育）12歳～14歳（第7～第9学年）の就学率は約42%となっていて低いことがわかる。

このような現状にあるカンボジア（シェムリアップ州）にて第18回ベトナム・カンボジアスタディツアーに参加した本学の学生を中心とした、取り組みについて報告するとともに、近年注目されているアクティブ・ラーニングが行われているかに焦点を当て本稿をまとめる。

2 本稿の目的

本稿では、2018年に学生が参加した、第18回ベトナム・カンボジアスタディツアーを足掛かりに、学生がアクティブ・ラーニングをしたかどうかを検証するとともに、筆者（池上）が実践している「画力不要なアート」について報告書にまとめることを目的とする。

3 本稿の報告内容

本稿の報告内容は、次の4点である。

- 1) 石川県ユネスコ協会が青年部に行っているスタディツアーについての報告
- 2) 「画力不要なアート」についての実践報告
- 3) エスノグラフィーによる学生自身の心理的变化の記述
- 4) エスノグラフィーのカテゴリー化と、その分析及び考察

4 支援先とスタディツアーについて

4-1 支援先について

石川県ユネスコ協会は2017年度より、国より認可されているNGOが運営しているBFO (Building Future Opportunity)^{注2)}と5ヶ年計画を結び支援している。本年度で2年目を迎える。BFOは2校の学校を運営しており、BFO1（360名在籍）、BFO2（60名在籍）している。学生たちは、両方の学校に訪問、支援活動を行った。毎年30万円の運営資金を提供し、その代わりにスタディツアーの受け入れをする契約を交わしている。新しく提携を結んだ組織として昨年度、青年部はスタディツアーを実施し、石嶺による衛生指導、ハンカチづくり、浄化水道の整備などの支援を行った。本年度は、第18回目のスタディツアーである。筆者（池上）は、実際にこのツアーに参加し、本学学生並びに他大学から参加した学生21名（内本校学生は8名）の参与観察を行った。

4-2 スタディツアーについて

スタディツアーは多種多様な形で行われている。その定義はそれぞれで、大学のゼミが主催するものもあれば、NGOが主催するもの、その他民間。公的団体が主催するものがそれにあてはまる。定義を付けるとすれば、旅のプログラムに学習要素や体験要素が加わったものがスタディツアーとなる。多くの場合、プログラムの内容がすでに決まっていることが多く、参加者自身その内容を取捨選択できないプログラムは多い。

その中で、筆者たちは、石川県ユネスコ協会青年部が企画・運営しているプログラムに焦点を当てた。

石川県ユネスコ協会青年部の企画・運営しているのは大学生であり、また自分たち自身が「学び」の最先端にいるのである。行く国、行く方法、料金設定、事前研修、事後研修を企画者（大学生）が行っている。主体的に学び、考え、行動することを目的とするアクティブ・ラーニングの先駆的な実践をしている。

4-3 第18回ベトナム・カンボジアスタディツアーの目的

本研修の目的は、以下の3点である。

- ・ 石川県ユネスコ協会によって建設された、寺子屋訪問を通して、ユネスコの精神を学ぶ
- ・ 海外での実体験を通して、日本では出来ない多くの経験をする
- ・ 学生が「失敗」することを通して、「失敗」から多くのことを学ぶ場を提供すること

4-4 第18回ベトナム・カンボジアスタディツアーの行程について

1	小松→上海→ベトナム（ホーチミン市）
2	孤児院見学→ドクさんとの夕食
3	班別活動
4	ホーチミン市→カンボジア（プノンペン）
5	班別活動（キリングフィールド等見学）
6	カンボジア（プノンペン）→シェムリアップ
7	班別活動
8	班別活動
9	班別活動
10	班別活動
11	班別活動
12	班別活動 → 上海
13	上海 → 小松空港

※色印が今回焦点化した日程である。また、班別活動の詳細は、表2で触れる。

5 「画力不要なアート」についての実践報告

筆者（池上）は、日々の講義の中で図画工作を指導しているが、あまりに苦手な学生が多いことに驚いた。その上で^{*4}「画力不要なアート」を学生たちに指導している。

20世紀初頭に登場した主題のない芸術、それは抽象芸術、ダダイズム、シュルレアリスムであり、さらに第二次世界大戦後の抽象表現主義、アールブリュット、ポップ・アート、アッサンブラージュ、ジャンクアート、コンセプチュアル・アート、グラフィックアートなどを参考に研究代表者池上がアレンジしたものである。事例として、珠洲市の船小屋で行った、抽象絵画のモンドリアンをモチーフにした折り紙でのアート。東金沢駅コンコースでのニーベルソンを参考にしたアッサンブラージュがある。また、カンボジア（シェムリアップ）での現地活動での例として、現地の校舎の一角にて、「折り紙によるオリジナルアート」を学生や現地の人々と共に実践した。その際、本学の学生や現地の人々（カンボジア）のアートに関する関心の高さが伺えた。

（写真1～3は、筆者（池上）実際に「折り紙によるオリジナルアート」をした様子である。）

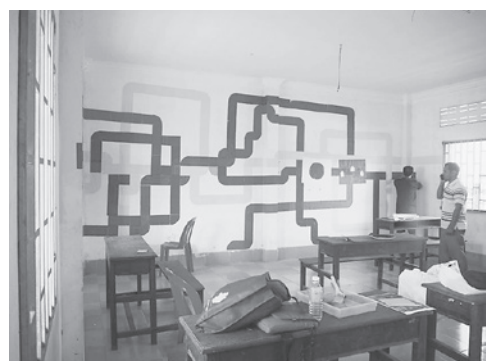
カンボジアのシェムリアップでは、アンコールワット等の遺跡群があり、仏像などのレプリカなどが露店などで販売されている光景をよく目にする。しかし、これらは教育上におけるアートとは程遠いものである。あくまでも模倣されたアンコールワットの仏像で、観光土産等で作られたものであり、アート教育から生み出された作品と呼べるものではなかった。ポルポト政権により知識人の惨殺を受け、アンコールワット寺院群の崩壊へといたった経緯があ



（写真1 折り紙アート制作過程①）



（写真2 折り紙アート制作過程②）



（写真3 折り紙アート完成）

り、アートに関しての教育者がおらず、小学校でもアート（図画工作）を実施している学校は非常に稀である。次期ナショナル・カリキュラムでは、芸術教育（音楽教育・図画工作科）を週1時間の科目として位置づけられている。しかし、NGOが運営する学校に関しては、独自カリキュラムを実施しているため影響を受けない。そのため、今後も継続してアート教育（図画工作科）支援の必要性が求め

られる。

6 スタディツアーとアクティブ・ラーニング

6-1 スタディツアーとアクティブ・ラーニングの関連性について

1) アクティブ・ラーニングとは

アクティブ・ラーニングは、近年注目されている学習体系である。アクティブ・ラーニングは、文部科学省（平成24年8月28日）^{*5}に出された中央審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」^{注3)}の中で、議論された言葉である。また同省の用語集^{注4)}^{*6}の中でも触れられている。この方針では、学習者である学生自身が受動的に学習するのではなく、主体的に学ぶことを重視されている。その結果、「場」設定がアクティブ・ラーニング実施するために必要不可欠な要素となってきたといえる。2020年の学習指導要領の改訂を機に全国の小・中・高・大のすべてがこの学習体系を取り組むことになる。

そのため益々、アクティブ・ラーニングによる学習形態の重要性が求められることである。もちろん、図画工作分野においても例外ではなく実施されている。

2) スタディツアーにおけるアクティブ・ラーニングについて

石川県ユネスコ協会青年部が企画・運営しているスタディツアーはこれまでに合計18回実施されている。第1回目より、学生が主体的に学ぶことを意識しており、参加者自身が行きたい場所、支援したい内容を主体的に考えている。先単元で述べた中央審議会答申（平成24年8月28日）では、「生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成できない。」としている。そして、受け身の「場」ではなく、主体的に学べる「場」の提供こそが今後求められる場となりえる。つまり、アクティブ・ラーニングを実践する場として、本スタディツアーは、学生たちに「場」の提供をすることによって、自ら学び、自ら体験し、自ら考える力を育成することに貢献できると考えられる。つまり、アクティブ・ラーニングが目標とする、「社会で生きていくために必要な力」の礎があるといえる。

7 スタディツアーを活用とした、支援活動のエスノグラフィー

7-1 エスノグラフィーについて

エスノグラフィーは、数値化できない事象を日記やメモなどから分析する質的手法である。エスノグラフィーをたどることにより、数値化の中で発見できない課題や問題を

明らかにすることができる。佐藤（1992年）^{*7}は、エスノグラフィーを次の2つの分類にまとめている。

① その対象についてフィールドワークという研究を使って調べた研究

② その調査の結果として書かれた報告書

また、高谷（2016）^{*8}は、「ブログ・エスノグラフィ」を提唱し、インターネット上の日記（Facebook, Twitter等）もエスノグラフィーになり得ることを明らかにしている。

このことから、本稿では、エスノグラフィーを用いて参加者の日記（Facebook）を分析することによりアクティブ・ラーニングの可能性を見出したいと考える。

1) 支援活動の実際

特に今回は、支援先であるBFO1およびBFO2で行った支援について取り上げる。A～Cの3班（5名ずつ程度）に分かれて支援活動3～4日程度実施した。（表2）どの支援内容も、学生自身が主体的に考え、また、事前交渉としてFacebook機能にあるMessengerを用いて直接現地との連絡・調整を行った。

（表2）

日程	A班	B班	C班
9.9	BFO1 うちわ作り	BFO1 衛生指導 手巻き寿司づくり	BFO1 手形アート
9.10	BFO1 運動会	BFO2 日本語指導 風車づくり	BFO1 運動会
9.11	グループ別活動	公立小学校訪問	BFO2 日本語教室
9.12	BFO2 そうめんづくり 日本語教室	大学見学	グループ別活動

2) 実際の支援の様子

以下、写真4～9は現地での活動の様子を写したものである。



（写真4 日本語を教える学生たち）



(写真5 風車づくりに挑戦)



(写真9 マーブリングによるうちわ制作)



(写真6 手形アートに挑戦)



(写真7 子供たちと手形アートを造る)



(写真8 衛生指導・歯の磨き方)

7-2 エスノグラフィー

今回のエスノグラフィーは、石川県ユネスコ協会青年部が開設しているFacebookにある日々の記録を綴ったものを引用した。なお、Facebookを活用したのは、学生たちが感じたことを素直に読み取れるエスノグラフィーであると考えたからである。

※なお、掲載には、参加者に承諾を得ている。

日	エスノグラフィー
2018年 9月8日	スタツアも後半戦ですが、みんな元気に楽しんでるA班です!!今日の午前はBFOK1近くの村を訪れて未だに地雷が見つかったり、過去に爆弾が落とされた跡が池になっていたりする現実を知りました。午後からはBFOK2でウェルカムパーティーを楽しみました!移動の道中ではクメール語をBFOKの先生から教えてもらって、数字とありがとうと自分の名前を言うことくらいはできるようになりました。(略) 今日は朝から晩まで濃厚な1日となりました。明日からの活動も楽しみつつがんばっていきましょうと思います。(A班 A) チュムリアップスオ!今日は明日から3日間活動するBFOKの人たちにウェルカムパーティーを開いてもらいました。カンボジアの人たちは温かいを通り越して熱くて、汗が止まらない1日になりました。クメール語をたくさん学んだのでそろそろ4ヶ国語話者になれそうです。そしてついに日本人から現地人だと思われました。馴染んでいるようです。いよいよ明日からこれまで準備してきた活動ができるので、子供たちがどんな反応をしてくれるか楽しみです!がんばるぞー!チュムリアップリア! (B班 T) 今日は、BFOKでウェルカムパーティーに参加させていただきました!明日から気合い入れていきたいと思います!!まずは、合同アート作成がんばっていきましょう!! (略) (C班 K)

2018年 9月9日	今日は午前中BFOKに行って子供達とうちわ作りをしました。<u>成功するか不安だったけど、子供達が真剣に取り組んでくれて嬉しかったです!</u><u>子供達も自分オリジナルのうちわができて嬉しそうでした。</u>(略)(A班 Y) 今日は初めてのBFOKでの活動でした◎ 計画通りには行かなかったけど、子ども達と触れ合う中で、日本の子どもと変わらない沢山の笑顔が見れて幸せでした!! (略)(B班 M) 今日はBFOKでの活動の初日でした。私たちの班はBFOK1で手形アート作成をしました!木の幹を事前に描いておいて、手に絵の具をつけてベタベタして葉っぱをつけました! 予定では約2時間くらいかけて出来ればいいかな〜って感じでしたが、スタートの合図をした瞬間、ちゃんと説明を聞いてくれてた子どもたちがすごい勢いで手形をベタベタし始めて、かずおが水を汲みに行っている間に秒で完成しました。(笑) <u>予想以上に早く完成してしまったけど、汚れないように下にひいていた紙にも隙間がないくらい絵を描いて楽しんでくれたのでよかったです。</u>(略)(C班 K)	良い活動ができ良かったです。午後からは世界遺産アンコールワットを訪れました。まさか人生で行くことがあるなんて思ってもいなかったもので、行けて本当に良かったです!歴史と芸術と自然と…いろいろなものを感じました。とても良い経験ができました。(B班 N) 今日Cグループは、午後からBFOK 1で運動会を開催しました。昨日と同じようにみんなの自由さと元気さに圧倒されて、<u>進行は少し手こずったところもありましたが、生徒みんなが楽しそうで、私たちもすごく楽しかったです。</u>(略)(C班 Y)
2018年 9月10日	今日はBFOK2日目運動会をしました <u>言語が違うためドッジボールのルールを説明するのが難しくてなかなか上手いかなかったけど、綱引きはルールが簡単でみんなとても楽しそうにやってくれて嬉しかったです。</u> 大学生vs子供達では勝たせてあげないとな〜って話していたけど本気でやって簡単に負けてしまってカンボジアの子供達はすごいなと思いました。 <u>そのあとわたしは男の子2人と話していました。英語がとても上手で色々な話をしました。1人の子は勉強が好きで、将来お医者さんになりたいって言っていましたわたしより英語が喋れるし、将来の夢もしっかり持っていて、わたしもがんばってもっと英語でコミュニケーションが取れるようになりたいと思いました。またカンボジアにきてその子達が大きくなった姿をみたいと思います。</u>あと1日BFOKの活動が残っているので全力で子供達と関わりたいと思います。(A班 N) 今日の午前中はBFOK2での活動でした!日本語指導と風車づくりを行いました。 子供たちがとても勉強熱心で驚きました!子供たちの学習に対する姿勢から逆に私たちも学ぶことが多くありました。日本語を使ったゲームや風車づくりではみんなとても楽しそうに取り組んでくれて、私たちも楽しくなりました!とても	2018年 9月11日 午前は公立学校、午後はBFOKに行かせていただいて充実した1日でした。どちらも日本語指導ではとても盛り上がってくれました。(B班 N) 今日は、BFOK2で日本語教室を開いて、子供たちと習字を楽しみました!<u>グループBが昨日教えた「ありがとう」や「先生」を早速嬉しそうに使っていて、私たちも嬉しくなりました!</u>グループCでは、英語や絵を交えながら、新しく「ごめんなさい」や「おはよう」を教えました!そして私たちも手伝いながら、初めての習字を楽しみました!カタカナで自分の名前の書き方を教えたなら、友達の名前や私の名前をカタカナで書きたい!と言ってくれる子もいて、3日間通して、素直で思いやりのあるいい子たちだなあと、とても感じました。(C班 Y) 2018年 9月12日 (略) BFOK2にて濃密なお別れ。BFOK1ではタイムカプセル大成功の模様。夜はホテル近くの中華屋さんでABC一部国際交流。フライドポテトは全世界共通で美味ということを学んだ。(略)(A班 E) (略) そして可愛くて、可愛くてたまらないBFOKキッズたちとはタイムカプセル作りを。みんなの夢を書いた折り紙を缶へ入れ、グラウンドに埋めました。予定では3日しかなかったBFOKの活動ですが、最終的に4日間も活動することができ本当に嬉しかったです。別れ際にくれた子どもたちからのラブレターは宝物です。<u>本当にこの旅は学ぶことばかりで、貴重な経験ばかりでした。子どもたちの素敵な笑顔に元気をもらい、想像力の豊かさには驚かされ、毎日が楽しかったです。このような機会があることが本当に幸せです。</u>あっという間の2週間、数時間後にはカンボジアを旅立つことにまだ実感がありません。ぜひ、またベトナムやカンボジアへ来たいです。(B班 M)

今日はBFOKの最後の訪問日でした。自分らの夢を語ったあとに、将来の自分への手紙を書いてタイムカプセルに入れ、埋めました。みんなそれぞれ夢があって感心しました。そして9月生まれの人を誕生日をケーキとTシャツで祝いました。とても喜んでいて様子だったのでよかったです。最後のお別れはとても辛かったけど、とても良い経験をさせてもらえた感謝の気持ちを忘れず日本へ帰りたと思いました（C班 S）

注) エスノグラフィーの場合、データの改変・変更はふさわしくないが、個人情報保護への配慮、及びデータ抽出のため以下点を変更した。

- ・ 名前表示を、頭文字のみに変更。また、一部絵文字の箇所を略して変更。
- ・ 下線を引き、データを抽出する箇所を強調

8 エスノグラフィーによる分析

8-1 エスノグラフィーからの文章の抽出

筆者（野崎）は、分析にあたり、アクティブ・ラーニングした様子、および「画力不要アート」を着眼点として、抜き出し（表-3）にまとめた。抽出した根拠として、学生自身の成長と考えられる箇所限定した。

（表-3）

アクティブ・ラーニング 「画力不要アート」 とみられる項目文の抽出	
①	<u>BFOK1近くの村を訪れて未だに地雷が見つかったり、過去に爆弾が落とされた跡が池になっていたりする現実を知りました。</u>
②	<u>成功するか不安だったけど、子供達が真剣に取り組んでくれて嬉しかったです！子供達も自分オリジナルのうちわができて嬉しそうでした。</u>
③	<u>予想以上に早く完成してしまったけど、汚れないように下にひいていた紙にも隙間がないくらい絵を描いて楽しんでくれたのでよかったです。</u>
④	<u>言語が違うためドッジボールのルールを説明するのが難しくてなかなか上手いかなかったけど、綱引きはルールが簡単でみんなとても楽しそうにやってくれて嬉しかったです。</u>
⑤	<u>男の子2人と話していました。英語がとても上手で色々な話をしました。1人の子は勉強が好きで、将来お医者さんになりたいって言ってましたりわたしより英語が喋れるし、将来の夢もしっかり持っていて、わたしががんばってもっと英語でコミュニケーションが取れるようになりたいと思いました。またカンボジアにきてその子達が大きくなった姿をみたいと思います。</u>
⑥	<u>子供たちの学習に対する姿勢から逆に私たちも学ぶことが多くありました。</u>

- ⑦ 進行は少し手こずったところもありましたが、生徒みんなが楽しそうで、私たちもすごく楽しかったです。
- ⑧ グループBが昨日教えた「ありがとう」や「先生」を早速嬉しそうに使っていて、私たちも嬉しくなりました！
- ⑨ 本当にこの旅は学ぶことばかりで、貴重な経験ばかりでした。子どもたちの素敵な笑顔に元気をもらい、想像力の豊かさには驚かされ、毎日が楽しかったです。このような機会があることが本当に幸せです。

8-2 エスノグラフィーのカテゴリー化

さらに、抽出した文からアクティブ・ラーニングの様子、および「画力不要アート」に視点を置き、カテゴリー化した結果、以下のキーワードが得られた。

番号	キーワード
①	現地を学ぶ
②③	課題解決能力・画力不要アート
④⑦⑧	対話的能力
⑤⑥	他者理解・自己理解
⑨	人間形成力・社会形成力

8-3 キーワード別の分析

〔現地を学ぶ〕

現地の現状を知ることにより、現地の問題をより具体的に自分のことのように捉えている様子が伺える。また、自ら体感することにより、戦争の恐ろしさを肌で感じていると考えられる。

〔課題解決能力・画力不要アート〕

図画工作教科を楽しみながら、教えている様子が伺える。筆者（池上）が課題とした「画力不要アート」の実践を自分たちで実践することになった。予定外のことに見舞われながらも「課題解決能力」を生かし、支援（教育）することができた。現地が学びの「場」であり、体験が自分にとっての学びに変えていることが読み取れる。

〔対話的能力〕

自分達が事前に計画していったことに、変更があり、課題を抱えることになったが、その課題も自分達でうまく乗り越えていこうという姿勢がみられる。さらに、加えて自分たちが行った支援が直接相手に伝わることの喜びを知ったことも読み取れる。目の前にある課題にどのように向き合っていくのかを個人やグループで話し合うことにより「対話的能力」をうまく活用し、解決する力へと結びつけている。

〔他者理解・自己理解〕

子供たちの前向きな姿を体験し、自分の思っていた想像と異なっていたことが読み取れる。言葉が通じないと思っていたが、英語を使うことで現地の児童とコミュニケーションが取れた。また、夢や希望を直接聞くことで、「他者理解」を通じて、自分と向き合い、「自己理解」へと繋がっていると考えられる。

〔人間形成力・社会形成力〕

今回のスタディツアーを通じて、体験を「学び」に直接変えることが出来たと考えられる。アクティブ・ラーニングによる成果である。これらは、「人間形成力」「社会形成能力」へと結びついていると考えられる。そして、スタディツアーの存在意義や必要性についても読み取れる。

8-3 考察

スタディツアーという学習形態は、本稿を通して、次の3点について指摘出来る。

- ①アクティブ・ラーニングが求めている「自ら主体的に学ぶ」ことに直結すること。
- ②そのねらいとなっている、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る点に関しても、総合的に有効であること。
- ③苦手な教科であっても楽しみながら、他者に教えることができ、教科教授法の基礎が身につく点。

9 まとめ

本稿では、「こどもスペシャリスト」を希望している学生に焦点を当てアクティブ・ラーニングができたかどうかを分析・考察した。苦手だった図画工作分野について、本学学生が、石川県ユネスコ協会青年部スタディツアーをきっかけとして、「こどもスペシャリスト」に必要な主体的

な学び、体験的学び、つまり、アクティブ・ラーニングを通じて、意識を変えることに繋がった。

学生たちは支援内容を考えだしていくことにより、自ら学び、自ら考え、自ら行動していくことが分かった。

特に学生たちは、現地に行き、図画工作（アート）の支援が現地には足りていない現状を把握し、その対応をした。これらのことにより、将来「こどもスペシャリスト」を目指している本学の学生にとって、必要な知識以外の要因、いわゆる教師（こどもスペシャリスト）としての資質の獲得^{*9}を経験させることができたのではないかと考えられる。さらに、追記すべき点においては、図画工作（アート）を好きになっていることである。筆者（池上）の参与観察の視点から、本プログラムに参加することにより、実践的な能力が身につく、図画工作（アート）を「教えた」という気持ちを育むことに結びつけることができたと思えることが出来た。

筆者（池上）はスタディツアーに参加して思うことは海外での研修は5年前にフィリピンでの研修で感じた様に、学生たちのポテンシャルを、より引き出しやすいと言うことである。さらに今回、アートを通してのアクティブ・ラーニングを自ら、実践的に体験できたことが良かったと感じている。

筆者（野崎）は、本稿を通じて、筆者がこれまで実施してきたスタディツアーがアクティブ・ラーニングの「場」の提供としての受け皿となりえること。また、参加した学生たちが「主体的な学び」を得たことを本報告書でエスノグラフィー分析、考察を通じて報告した。

今後さらに参加者を追跡していくことで、瞬間的、場面的（スタディツアーの期間だけ）な変容を長期的な変容（将来の目標）定める手段となることを捉えていく必要性があると考えられる。

注

- (1) 小学校については、国内に約7000校ある。しかし、その中には教師がいらないために学校として機能していないところがたくさんあるのが現実である。教師がいらないために学校が機能しない現状は、教員の給料にかかわって生じている。カンボジアでの生活費は、例えばシェムリアップ市で一家5人が一般的な生活をするためには少なくとも月300ドル必要と言われている。しかし、教員の給料は月およそ40ドルと非常に少ない。そのため、教員は生活のために副業をしなければならない。

農村部の場合、副業の職がないため、教員は副業のある都市部へ流れていっている。そのため、どれだけ政府や外国の援助によって立派な校舎が建っても、そこで教員の生

活がなりたたないことから、教員が足りなくなり学校として機能できない状況が生じている。

一方、都市部では教員は副業として学校外で塾を行っている。

カンボジアの学校は午前・午後の二部制である。カンボジアでは教師も同様に2部制で働いている。つまり、午前だけ働く教師と午後だけ働く教師がいる。そのため、午前で学校で教える教師は、午後に塾を行い、午後に学校で授業を行う教師は午前で塾を行っている。その塾では、自分が学校で受け持っているクラス生徒に対して教えており、そこでは学校の勉強の復習ではなく、学校の授業の続きや補習を行っている。

そのため、塾に行かなければ学校の授業についていくことが出来なくなり、塾に通うお金のない子供たちは授業に

ついていけずに、進級することがむずかしくなる。

教員の生活が十分に保障されていないことが、子供たちが平等に教育を受ける機会をも奪っている。また、教員の給料の問題は、教員の教育活動への意識の低さを生み、それが教育の質の低下までも引き起こしている。

- (2) BFO (Building future opportunity) は、国（政府）による認可を受けた初等教育を中心とした寺子屋（学校）である。シェムリアップ州中心地より、トゥクトゥク（バイクタクシー）にて約20分の場所に位置している。生徒数はBFO1（360名）・BFO2（40名）合計400名程度の児童が学ぶ。石川県ユネスコ協会はBFO2の寺子屋（学校）を2006年に建設した。主に、英語教育、コンピューター教育、環境教育等を中心に、読み書きや計算なども教えている。一方で、情操教育（音楽やアート）は、指導教員が居ないため、教えることができないという問題点も抱えている。
- (3) 生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である。すなわち 個々の学生の認知的、倫理的、社会的能力を引き出し、それを鍛えるディスカッションやディベートといった双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を中心とした授業への転換によって、学生の主体的な学修を促す質の高い学士課程教育を進めることが求められる。学生は主体的な学修の体験を重ねてこそ、生涯学び続ける力を修得できるのである。
- (4) 【アクティブ・ラーニング】(p3, 4, 9) 教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能

動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

参考文献

- ※1 Henley&Partners Pssport index
<https://www.henleypassportindex.com/compare-passport> (2018年更新)
- ※2 And Cott Cambodia <http://anacott.web.fc2.com/cambodia.html> (2018年11月4日入手)
- ※3 外務省 (2018) 諸外国・地域の学校情報 https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/01asia/infoC10300.html (2018年12月19日入手)
- ※4 池上奨 (2018) 「現代アートで遊ぶー画力不要アートー」金沢星稜大学人間科学研究 第11巻 第2号
- ※5 文部科学省 (2012) 「平成24年8月28日中央審議会答申」
- ※6 文部科学省 (2012) 「平成24年用語集」
- ※7 佐藤郁哉 (1992) 『フィールドワーク 書を持って街へ出よう』, 新曜社, pp40-41
- ※8 高谷邦彦 (2016) 「ゼロ年代の情報行動の変容: エスノグラフィによるブログ行動のモチベーション分析」
https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/61540/1/Kunihiko_Takaya_abstract.pdf (2018年11月4日入手)
- ※9 野崎幸生 (2003) 「国際理解教育におけるNGOと学校との関わり合いについての研究～スタディーツアーを活用とした教師の資質向上について～」, 上越教育大学修士論文

